

探究的な学習の実現に向けた授業づくりに関する調査研究

—小・中学校における「総合的な学習の時間」を通して—

研究概要

近年、少子高齢化や人口減少の進行、AI等の技術革新やグローバル化の進展が急速に進んでおり、社会の変化が加速度を増している。さらに、新型コロナウイルスの感染拡大等、まさに予測困難な時代となっている。こうした変化の激しい予測困難な時代に柔軟かつ適切に対応できるよう、目の前の事象から解決すべき課題を見だし、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、解決策を生み出す資質・能力が強く求められている。

富山県においても、技術革新やグローバル化等、社会の変化に対応できるよう、「課題解決型の教育」を展開することを、第2期富山県教育大綱や第3期富山県教育振興基本計画に掲げ、推進している。

こうした時代だからこそ、探究的な学習に取り組み、答えのない課題に対して、多様な他者と協働しながら目的に応じた納得解を見だし、いけることができる資質・能力を育成することはとても重要なことだといえる。そこで、総合的な学習の時間を通して、「課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の探究的な学習の過程に沿って学習活動を繰り返していくこと」「協働的に取り組む学習活動を行うこと」を調査研究の視点とし、子供たちの学習の質を高め、探究的な学習の実現に向けた授業づくりについて明らかにすることを目的として、今年度、4つの研究に取り組んだ。

研究1では、探究的な学習における児童の豊かな学習の姿を具現化し、授業を見る視点として、研究2で授業分析を行った。研究3、4では、授業構想を支えるための「探究的な学習確認シート」や「単元デザインシート」を作成し、探究的な学習活動が展開されているか確認したり、子供たちの関心や疑問、教師の願い、教材の特性の視点から単元構想したりできるようにした。

探究的な学習の過程に沿って学習活動を繰り返すことで子供たちは課題意識を高め、見通しをもって課題解決に取り組もうとすること、振り返りの活動は、学ぶことへの意義を考え、自分のよさや可能性に気づき、学んだことを自信や将来の自分の生活につなげていくことが明らかになった。

<キーワード>

探究的な学習

学習過程を探究的にすること

協働的に取り組む学習活動

児童の豊かな学習の姿

探究的な学習確認シート

単元デザインシート